

8:1 その後、イエスは、神の国を説き、その福音を宣べ伝えながら、町や村を次から次に旅をしておられた。十二弟子もお供をした。
8:2 また、悪霊や病気を直していただいた女たち、すなわち、七つの悪霊を追い出していただいたマグダラの女と呼ばれるマリヤ、
8:3 ヘロデの執事クーザの妻ヨハンナ、スザンナ、そのほか自分の財産をもって彼らに仕えている大ぜいの女たちもいっしょであった。

8:4 さて、大ぜいの人の群れが集まり、また方々の町からも人々がみもとにやって来たので、イエスはたとえを用いて話された。
8:5 「種を蒔く人が種蒔きに出かけた。蒔いているとき、道ばたに落ちた種があった。すると、人に踏みつけられ、空の鳥がそれを食べてしまった。

8:6 また、別の種は岩の上に落ち、生え出たが、水分がなかったので、枯れてしまった。
8:7 また、別の種はいばらの真中に落ちた。ところが、いばらもいっしょに生え出て、それを押しふさいでしまった。

8:8 また、別の種は良い地に落ち、生え出て、百倍の実を結んだ。」イエスは、これらのことを話しながら「聞く耳のある者は聞きなさい。」と叫ばれた。

8:9 さて、弟子たちは、このたとえがどんな意味かをイエスに尋ねた。
8:10 そこでイエスは言われた。「あなたがたに、神の国の奥義を知ることが許されているが、ほかの者には、たとえで話します。彼らが見ているも見えず、聞いていても悟らないためです。

8:11 このたとえの意味はこうです。種は神の

ことばです。

8:12 道ばたに落ちるとは、こういう人たちのことです。みことばを聞いたが、あとから悪魔が来て、彼らが信じて救われることのないように、その人たちの心から、みことばを持ち去ってしまうのです。

8:13 岩の上に落ちるとは、こういう人たちのことです。聞いたときには喜んでみことばを受け入れるが、根がないので、しばらくは信じていても、試練のときになると、身を引いてしまうのです。

8:14 いばらの中に落ちるとは、こういう人たちのことです。みことばを聞きはしたが、とかくしているうちに、この世の心づかいや、富や、快樂によってふさがれて、実が熟するまでにならないのです。

8:15 しかし、良い地に落ちるとは、こういう人たちのことです。正しい、良い心でみことばを聞くと、それをしっかりと守り、よく耐えて、実を結ばせるのです。

8:16 あかりをつけてから、それを器で隠したり、寝台の下に置いたりする者はありません。燭台の上に置きます。はいって来る人々に、その光が見えるためです。

8:17 隠れているもので、あらわにならぬものはなく、秘密にされているもので、知られず、また現われないものはありません。

8:18 だから、聞き方に注意しなさい。というのは、持っている人は、さらに与えられ、持たない人は、持っていると思っているものまでも取り上げられるからです。」

クリスチャンでも、同じ礼拝メッセージを聞いても、成長しやすい人とそうでない人がいます。イエス様がその違いについて語っておられます。

みことばをどういう心で聞くかが左右するということです。

道ばたのような心とは、硬くて全く受け入れられない心です。いつかは…という訳にはいかず、直ぐにみことばは消え去ってしまいます。岩の上には砂のようなやわらかい土がありますから、芽が出ることもあります。水分が足りません。表面には受け入れたようなそぶりを見えますが、実行の伴わない人がこれに当たるでしょう。

いばらが生えている土地は案外良い土です。しかし邪魔なものが多すぎます。素直な心で受け入れても、信仰以外に楽しみが多すぎて、信仰が後回しになっている人です。

実を結ぶ人は「正しい良い心でみことばを聞いて、…守り、耐えて、何倍もの収穫を得るのです。自分の状態をよく考えて、実を結ぶ者の習慣を身につけましょう。

「隠れているもので、あらわにならぬものは」ないので、私たちが信仰を明かにしましょう。「持っている人は、さらに与えられ、持たない人は、持っていると思っているものまでも取り上げられる」のですから、みことばをどのように聞か、その「聞き方に注意」しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

